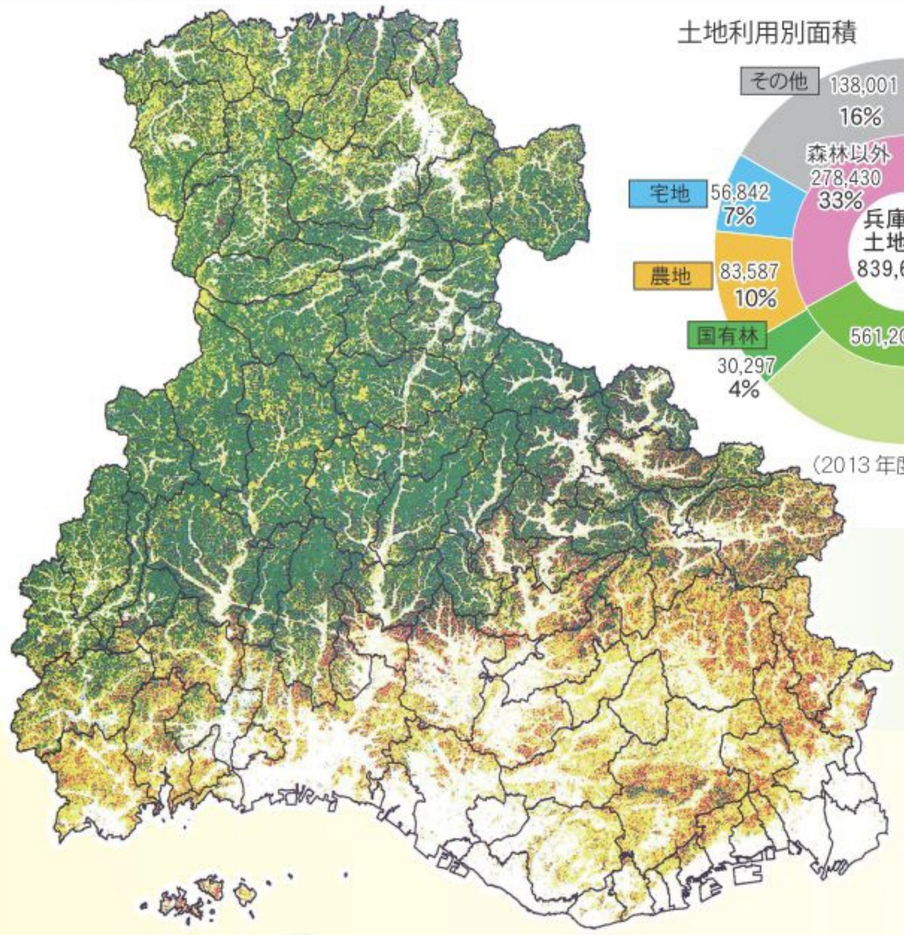
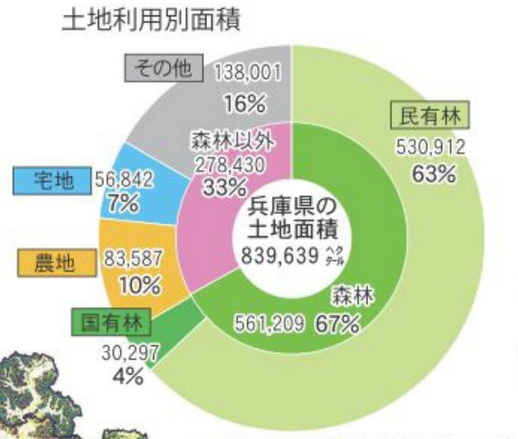
兵庫で、生きる

■ データで見る県内の森林

兵庫県域の７割近くを占める「森」。県内では国策で拡大した人工林が〝伐り時〟に入り、豊かな資源の宝庫になっている。一方で、シカやイノシシなどの被害は収まらず、荒れた森も広がる。国内外で木材需要が高まる中、資源を確実に生かすための人材や体制は十分なのか。現状をデータなどから紹介する。

（宮本万里子）





（2013年度兵庫県林業統計書より）

森林面積

人工林の64%〝伐り時〟

兵庫県林業統計書の２０１３年度版によると、県内の森林面積は56万１２０９㌶。県全体の67%を占め、国土全体の面積割合とほぼ同じだ。

県や市町、個人、企業などが所有する民有林が大半。そのうち42%は手入れが必要な人工林で、55%がほとんど手を掛けなくてもいい天然林に当たる。

人工林は戦後、住宅や家具などの資材として供給することを目的に植栽された。枝打ちや不要な樹木の除去などこまめな管理が求められる。

一方、伐採・活用が可能な「成熟林」の目安は樹齢46～50年以上。県内では、15年ほど前から成熟林が増え始め、近年はまさに最盛期。13年度は成熟林が人工林約22万㌶のうち約14万㌶（64%）を占め、今後20年ぐらいは増え続ける見通しだ。

県は、森林資源のフル活用に向け、林道の整備や機能の高い機器の導入を予算化。県林務課の中川幸二・造林計画班長は「手入れをして健全な森林を維持し、資源を生かさないともったいない。今こそ、木材の利用促進や林業の振興策に力を入れたい」と話している。

資源の宝庫 分岐点

重労働 担い手不足続く

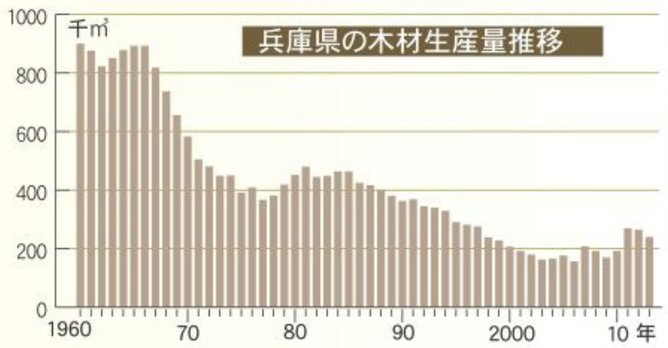
林業従事者の推移

木材需要に応えるための人材は不足している。林業労働者は全国的にこの50年減り続け、兵庫県でも１９７９年度（４０１９人）をピークに減少、２０１３年度は９００人に落ち込んだ。

県によると、危険な作業が多い上に重労働で、収入も高くないため、若者の就労が少ないのが現状。林野庁の調べでは、年間所得（13年）は、全産業平均の４４１万円に対し、林業は２９１万円と大きな差があった。

未経験者に研修をし、就業を支援する国の事業「緑の雇用」は、県内でも03年度からスタート。それまで７～８割台だった50歳以上の中高年労働者の割合が下がり、13年度には5割を切った。県も森林組合への経費補助などを実施。15年度から、高校生に林業を知ってもらうための出前授業を始めるなど力を注ぐ。

森の中で育ち始めた広葉樹の葉＝宍粟市波賀町皆木（撮影・峰大二郎）



木材生産量

輸入減 千載一遇の好機

農林水産省の調べでは、兵庫県の木材生産量は、40年ほど前から減り続けたが、２００９年（17万立方㍍）を底に増加傾向に転じ、13年は24万立方㍍に上る。

木材需要は、戦後復興や高度経済成長期に一気に増えたが、並行して１９５０年代から木材輸入の自由化が段階的に始まり、国産木材の生産量は低迷した。

しかし近年、海外で関税が引き上げられるなどして輸入が減った上、国の補助充実もあり、国産木材の生産量が伸びつつある。

こうしたチャンスを逃さないよう、県や業界団体は対策を進めている。

08年には森林組合や製材企業などが協同組合をつくり、木材供給の拠点となる兵庫木材センター（宍粟市）を開設。間伐材を木質バイオマス発電に生かす取り組みも広がってきた。

県は、県産木材を住宅建築に使う場合のローン優遇や、「木育（きいく）」と称し、幼稚園や保育園で木に親しんでもらうイベントなどを実施。今年5月には、県木材業協同組合連合会が県産木材をＰＲする施設を神戸市内に設けた。

※人工衛星データ。兵庫県森林林業技術センター提供

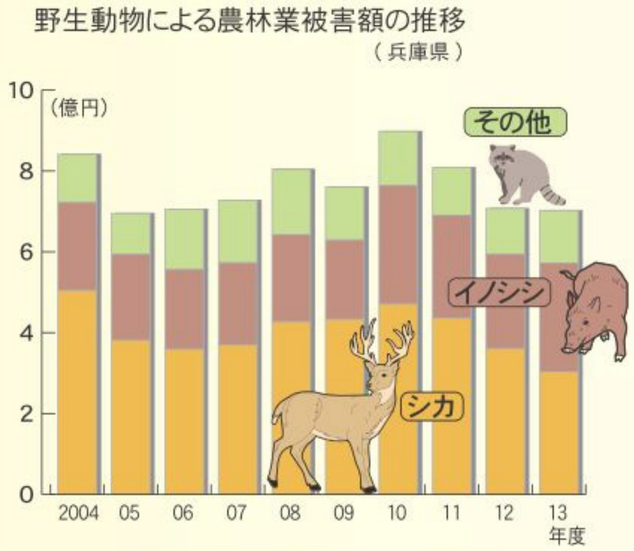
野生動物による農林被害

食害など年７～８億円、対策へ

シカ、イノシシなどの野生動物による県内の農林被害は深刻だ。県の調べでは、年間農林被害額は２００４～13年度の10年間、７億～８億円前後で推移。13年度はシカが43%、イノシシが38%を占めた。

県森林動物研究センター（丹波市）によると、県内の林業被害は１９８０年代に現朝来、養父市付近で問題化。ヒノキやスギの若木の樹皮が食べられたり、根を荒らされたりし、丹波や淡路島などに拡大した。国や県は防護柵を設ける際の費用などを補助。シカの捕獲も進め、被害額は10年度をピークに減少傾向が続く。

一方で、「狩猟者の高齢化もあり、人手不足が課題」と同センターの田口彰・副部長。「被害のダメージは大きい。捕獲効率を上げるための技術指導や狩猟免許取得の支援を続けたい」と話す。



◆この特集は、兵庫県内各地を記者が訪ねるルポ連載「兵庫で、生きる」と連動しています（**社会面参照**）。神戸新聞ＮＥＸＴにもデータ詳報を掲載します。次回は９月上旬の予定です。ご意見・ご感想を報道部特報班までお寄せください。ファクス078・360・5501。メールはtokuhou@kobe-np.co.jp